

〔赤嶺奈津江議員 登壇〕

○12番 赤嶺奈津江さん 皆さん、こんにちは。きょうは一般質問初日ですけれども、午前中は環境施設組合がありましたので、午後からになっております。19期議員として初めての質問ですので、これまでかかわってきた総務関連の事業も含め、教育でも力を入れていきたいものを入れてありますので、ぜひ前向きなご答弁をよろしくお願いいたします。それでは大きい問いを4つ入れてありますけれども、最初に一括して質問させていただいて、再質問から一問一答でいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

大きい問い1. 子どもの貧困等対策事業について。（1）子どもの貧困等対策事業の実施状況及び現状はどうなっているか。（2）事業実施当初の状況から、変更されている事業はないか。（3）対象者の状況はどうなっているか。（4）今後の事業計画はどうなっているか。

〔赤嶺奈津江議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午後1時31分）

再開（午後1時31分）

○議長 知念富信君 再開します。12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 大きい問い2. 児童見守り安心システム「ツイタもん」の導入を。（1）「ツイタもん」は、子供たちの登下校をICタグによって記録するシステムで、隣町、八重瀬町で導入されている。防犯カメラ設置工事費やICタグ代がかからず、導入できます。子供の安心安全のために導入できないか。

大きい問い3です。2020年東京オリンピックに向けた取り組みについて。（1）各地で東京オリンピックに向け、キャンプなどの誘致活動が行われているが、本町も誘致に取り組む予定はあるか。（2）キャンプ地としての誘致活動以外に、南風原花織や琉球餅、また、かすりウェア等の商品開発も含め、販路拡大する機会となると思うが取り組む考えはないか。

大きい問い4. 発達障がい児支援について問う。（1）発達障がい児の受け入れ状況について、各小中学校の在校児は何人か。（2）発達障がい児を支援する専門家の配置はあるか。（3）支援について、学校側からの要望等はないか。以上、大きい問い4点お願いいたします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の子どもの貧困等対策事業について、（1）についてお答えします。子どもの貧困等対策事業につきましては、こども課に子ども元気支援員を2人配置し、気になる子供たちの把握と支援を行うとともに、町内に2カ所、支援を必要とする子供たちの居場所として、こども元気ROOMを設置しております。（2）についてお答えします。こども元気ROOMの1カ所が平成30年4月から、場所を字兼城から字照屋へと移し支援を行っています。それ以外はこれまでと同様の内容であります。

（3）についてお答えします。ことしの10月1日現在で支援している子供たちは24名で、内訳は高校生1人、中学生5名、小学生15名、未就学児3人となっております。（4）についてお答えします。今後は、こども元気ROOMと児童館などとの連携で幅広い支援体制が組めないか検討しているところです。また、若年出産に関する支援についても、新たな取り組みとして検討を進めています。

質問事項3点目の2020年東京オリンピックに向けた取り組みの（2）についてお答えします。オリンピック開催は販路拡大のチャンスであることから、商品開発も含めて琉球餅事業協同組合と連携をして取り組んでまいります。以上です。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 続きまして質問事項の2番、児童見守り安心システム「ツイタもん」の導入についてお答えいたします。ツイタもんにつきましては、去る2月の町内の校長・教頭連絡会において説明はしております。システムとして一定の効果があるとは思いますが、個人情報取り扱いを危惧する声があることや、登下校通知メールについては有料であることなどから、設置には保護者との合意形成が必要だと考えています。今後、導入している他の市町村からの情報収集等を行い、効果や課題を含め検討してまいります。

続きまして質問事項3番目、2020年東京オリンピックに向けた取り組みについての（1）でございます。オリンピックのキャンプ誘致した場合には、地域の活性化や町民へよい効果があるとは思いますが、この誘致を行うに当たっては、人的・財政的負担がどのようにかかわってくるのかなど、調査研究の上、総合的に判断していきたいと思っております。

10月10日（第4号）一般質問

質問事項4番目の発達障がい児支援についての（1）です。特別な支援が必要な児童・生徒の人数は、小学校の自閉症・情緒学級53人、通級指導教室33人、通常学級23人、小学校の合計が109人。中学校においては自閉症・情緒学級が16人、通級指導学級が12人、通常学級が3人、合計31人が在籍しております。（2）でございます。発達障がい児に限定した専門家は配置しておりませんが、特別支援教育全般において相談業務を行う「特別支援教育相談員」を教育委員会事務局に配置しております。（3）です。支援員配置や発達障害を抱える児童への支援方法等について要望があり、県立学校教諭が講師となった研修会や、作業療法士が学校を訪問しての先生方や特別支援教育支援員へのアドバイスをいたしました。以上です。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。それでは一問一答で再質問していきたいと思います。子どもの貧困等対策事業は、最初南風原からということで事業を開始したと思うのですが、2カ所ありますが、（1）と（2）はかかわるのですが、当初、各中学校区で1カ所ずつということだったのですが、1カ所が南風原中学校区から南星中学校区に移転したということなののですが、その理由はどういった理由で移転になったのでしょうか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 南風原中学校区に設置しておりました居場所は、支援の部屋がワンルームという状況でございました。支援する子供たちは、時によっては、あるいは子供によっては個別な支援が必要なこともありますので、どうしても部屋が複数必要な状況でありまして、移転先を探したところ物件が見つかりましたので、支援の質の向上ということで移転になりました。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん やはり地元、地域で支援していくということで当初ありましたので、南風原中学校区であれば南風原中学校区であったほうがいいと思うのですが、南風原中学校区ではなかったということによろしいのでしょうか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 町内、まず中学校区で探していたのですがなかったです。しかし、子供の支援をする際送迎がつかますので、夜も家庭へ送りますので、南風原の全区域であれば今の移転先でももともとの場所とそんなに時間的ロスもなく送迎が可能ということで、支援の内容はキープできるということで今の移転になっております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 当初から校区ごとということだったので、移転したと聞いたときなぜかというのもあったのですが、実際、平日と祝祭日だったら金曜の夜からでしたか、支援する場所が変わることであるのですが、受けるのであれば、できたら同じところで支援できるシステムに変えてもいいのかなど。場所だけではなくて。同じところで常に支援できるような体制づくりというのができないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 今、南風原町の中では中学校区ごとということで2カ所、今は南星中学校区に2カ所で設定していますが、来年度に向けて1カ所で、同じ場所で支援するというので検討はしております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 本当でしたら、私からすれば小学校区ごとに、人とかかわりが少ない子たちなので、できるだけ多くの子といますか、人とかかわるといって点では中学校区ごとでもいいのかと思いますけれども、できれば受け入れる先といますか、居場所となる場所は数多くあったほうが実際いいと思っています。なぜなら選択できる。ここが嫌なのに行かないといけないというよりは「ここもあるよ、ここもあるよ、あなたが行ける場所はどこ？」と選択できるような形にしていくほうがいいのかなという思いもありまして、校区ごとにこだわらない状況になってきているのであれば、新しく（4）ともつながるのですが、児童館だったり、いろいろな選択肢の中で午前中からの居場所として、実際提供できる施設、町の自前の施設があるわけですから、そういったことができるのではないかと。これについては一番最後の4問目にもあるのですが、発達障がいの方は不登校になりやすいということもあるということだったので、そういった受け入れ先としての児童館の活用ということも必要ではないかと思うところで、せっかく各小学校ごとに児童館がありますので、そういうことも検討しているのか。連携という形になっていきますけれど

10月10日（第4号）一般質問

も、それぞれがそれぞれの方針といいますか、やり方を持って支援できる体制づくりというのを、児童館は児童館で午前中からあけて子供たちを受け入れるとか、そういうことができるのかどうか、確認したいと思います。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 赤嶺奈津江議員がおっしゃるとおり、子供の居場所は、今やっている元気ROOM以外にも町の施設として4館がございまして、ちょうど午前中は平日であればあいてございます。元気ROOMの支援員からも、元気ROOMでの支援は終えられるけれども、学校に行くまでもう少しワンクッション欲しいということで、児童館の活用の提案もありまして、内部でも検討しているところでございます。積極的に活用してまいりたいと思っております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。

(3)になるのですが、実際今、支援している子供たちが24名ということなのですが、子供たちの各学校ごとの人数は、今時点でわかりますか。お願いします。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 これは中学校区でよろしいですか。

○12番 赤嶺奈津江さん できたら小学校区で。

○こども課長 前城 充君 小学校区で。4校で。北丘小学校が7、南風原小学校が5、津嘉山小学校が2、翔南小学校がゼロ、これは10月1日現在の支援している子供の数でございます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。これで見ると、北丘小学校と南風原小学校が多いということで、反対に、先ほどの照屋に行ってしまった、若干遠いかと思いますので、早目に児童館の活用は検討してあけるべきだと思いますけれども、今現在の状況としましては、児童館を午前中からあけて受け入れる体制づくりができるまでどれぐらいかかる予定で動いていますか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 実は今、地域福祉推進計画をつくっている最中でございまして、その中でも児童館の件は出てきます。この計画が来年4月からの計画になりますので、来年度以降、機を見て、しっかり午前中対応できるような体制が整ったら、活用に入りたいと思いますし、また地域の団体などが活用して支援をしたいというものがあれば、町社協の補助事業なども使いながら、開放していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、多分今、元気ROOMに通えている子というのは、周りが把握してくれたりとか、発信する力があったりとか、周りが見つけてくれたということがあると思うのですが、実際、拾い上げられていない子供たちがまだ実際いると思います。その中の現状を把握するための町としての施策の中で、今どういったことをやっていますか。把握といいますか、この子供たちを実際まだ拾い上げていないといいますか、救えていない子がまだいると思います。実際に声を上げるという子はまだ大丈夫だと思うのですが、地域とのつながりがなく、なかなか学校に行けなかったりということもあると思います。この子供たちをどう拾い上げるかということで、情報収集の方法、どのように把握していこうとしているのか。把握しているのか。現状をお願いします。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 実際この事業を始めてから、こども課に元気支援員を2人配置して、気になる子供の把握が始まっているわけです。平成28、29で512名の気になる子供が把握されています。どこから来るかといいますと、学校が圧倒的に多いのですが、児童館、あるいは民生委員の方々、あるいはCSWからということで、不登校とか、そういう不登校になりがちな子供の情報というのもしっかり入ってきていますので、そのあたりは今の体制で維持していけるものだと思っております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。今、不登校気味の子というところからも拾い上げるということがありましたけれども、実際、今回は貧困対策等ということで動いていますので、項目に該当しないうちになかなか、不登校でも該当しなかったりと思うのですが、今度はくり方を不登校でも受け入れるとか、そうやっていかなければいけないのかなと。見えない貧困ってありますよね。貧困って、孤独だったりとか、別に生活

10月10日（第4号）一般質問

に困っていなくてもそういう状況にある子というのはいると思うので、不登校気味ということで受け入れる予定もあるのかどうか、確認させてください。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 512名の中に不登校気味の子も入っていますが、ほとんど何らかのシグナルを発している子供の情報が入ってきていることでありますので、大多数は不登校とか不登校気味ではなくて、いじめがあったりとか、あるいは服装が気になるとか、そういう情報が入ってきていますので、今の段階で漏れはないかと思っております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。新川のほうでも、子供の居場所づくりだったりとか、新川区民食堂ということで、社協からの紹介で来ていただいたりということもあるのですが、正直紹介いただいても、実際に見ていて、貧困ということではないように感じる子とかもいるのですが、何らかの問題を抱えているというところで紹介、来ることもあります。横のつながりが少なくなってきた、居場所としての、居場所というまじか、家庭としても居場所がない状況もあるものですから、そのつながりを救うという意味でも、一つの施策として子ども貧困対策等事業があると思っておりますので、できるだけ多くの子を拾い上げて、この事業に該当しなくても、次に回せる事業があるという対策はやっていかないといけないと思っておりますので、今計画中ということですので、いろいろ網羅できるようにお願いしたいと思います。

児童館の活用ということで（4）ですが、今現在、児童館は午前中あいているのですか。確認です。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 現在、平日の午前中はあいております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 平日の午前中はあいているということですが、実際、子供たちは平日の午前中だけではなくて、土曜日の午前中も行く場所がないという子は多いと思うのですが、月曜日から土曜日まであける予定はないですか。

○議長 知念富信君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 土曜日は9時からあけておりますので、去年、1時間早めて、10時だったものを9時に早めて、居場所の時間を長くして対応しております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。特に台風で運動会が延びましたけれども、運動会明けの月曜日とか、振替休のときに子供たちの居場所がないということで結構困るという保護者も多いものですから、あける時間を早目にしてもらおうとか、各学校の行事を確認して受け入れるとか、そういったところでも子供の居場所としての児童館のあり方というのでも考えてほしいというところでの今の質問になります。やはり保護者が働いていて、子供がどこに行ってもいかわからないとか、学童に預けられている子はまだいいと思うのですが、働かないといけない、でも子供は置いていけないといけない、子供たちは居場所がないという場合には、やはり児童館が大事な場所になってくると思っておりますし、なかなか学童に預けきれないという保護者がいる中では、大きな事業になると思っておりますので、児童館の活用は徹底していただきたいと思っております。

次に行きたいと思っております。大きい問い2番です。児童見守り安心システム「ツイタもん」の導入をということで質問させていただいております。皆さんの手元にも資料を提供させていただきましたけれども、県内で28校が導入されておりまして、臨町の八重瀬町では4月と7月に、東風平小学校が4月からでしたか、白川小学校が7月からだったと思うのですが導入されて、試験的ということではあったと思うのですが、かなり好評を得ていると。このシステムというのが、パソコンと防犯カメラ、ICタグ、ハード部門については全部無償提供で、オプションとしてメール会員になる方だけが有償、月400円の年間4,800円ということで、会員になることができます。このメリットというのが、校門に入ったら、この子がどの校門から入った、帰るときに何時にこの校門を出たというのがデータ化されるということで、途中で抜けたり、何時に帰ったかわからないとか、そういったことが把握できるという点で、助かるという保護者が多いということです。メール会員になったときに通知が来るということもあるのですが、中にはかばんを持って出たのに学校に来ていないというウーマークといえますか、という子のときでも学校に確認して、来ているか来っていないか確認するのに時間がかかってとか、下校した後に家に帰っていないけれど、学校に問い合わせをしても帰ったかどうかかわからないという状況の中で把握しやすいというところで、メリットがある。実際に、私の周りにも学校から家に帰っていないとい

10月10日（第4号）一般質問

うところで、ずっと探して、3時間ぐらい保護者が探して、やっと見つかったというときには、ただ友達の家で遊んでいて居眠りして、帰るの遅くなっただけだったとかということがあったので、それ以外にもいろいろあるのですが、そういったところで、どの校門から出たか、入ったかというのがわかる。カメラの設置も無償でやっていただけるということなので、ぜひこれは維持管理の面から見ても、町当局としての手元から出るものがないという点ではメリットがあるかと思うのですが、実際、2月には学校長、教頭会のほうでも説明をしているということなのですが、多分反応が薄かったから導入につながっていないと思うのですが、今、県内28校が導入しているということなので、情報収集もできるかと思うのですが、今現時点で情報収集を行っているのか。情報が入っていたらどう聞いているのか、教えていただきたいと思えます。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 まず情報として、質問がありました八重瀬町の東風平小学校、それから白川小学校の状況を調べました。まず東風平小学校では在校生徒1,017人中、タグ保持者が218人、加入率でいうと21.43%、さらにオプションの加入者が48人ですので、全体からすると4.71%です。あと、白川小学校においては在籍659人中、タグ保持者が168人、保持率25.49%、それからオプション加入者が27人で4.09%という状況になっております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。今、加入率が低いなというのが私の感想なのですが、実際、心配とおっしゃる保護者の中には、ちょっと多動気味で結構外に出るといふ子のときには、下校が把握しにくくて、途中でどこかに寄ってもわからないというところで、いつ校門から出て、カメラもあるので何時に出たというのがわかればこのルートを探せばわかるというところで、そういったところでの活用になるのかなど。特に低学年が管理する部分では、管理といいますか把握するためには必要ではないかという話がありました。そういうこともあって、多分加入率、全員ではないのかなど。また、宜野湾小学校で一番最初に導入されたということでありまして、やはり校区が広いところとか、いろいろな方がかかわるところが結構加入が早かったりすると感じます。実際、タグが一番最初に導入されたのが池田市ということで、あちらはもう市全部挙げての導入だったと聞いているので、防犯といいますか、犯罪に巻き込まれないためにも導入ということにつながったようです。南風原町も実際交流人口が多い地域になってきていますので、やはり導入を検討してもいいのではないかと。また、先ほど野原課長からもありましたように、導入しても全部が持たなくていいという判断もつくわけで、ハード部門を導入さえしまえば、保護者の判断ということにつながるかと思うのですが、町としてどうお考えでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 赤嶺奈津江議員がおっしゃるように、いろいろ選択の方法は我々もあると考えています。ただ、導入についてはPTAと学校長の了解が必要だということが重要になっていまして、一番の障壁といいますか、導入が難しくなっているのは、PTAの中にもいろいろな考え方の方々がいて、導入までになかなか至らなかったというのが現状のようです。再度、こちらとしても新しい機械を見つけて、校長にどうですかという情報は提供していきたいと考えています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、北丘小学校でのり面工事をしていて、新川階段も年度内にできる予定ではあるのですが、そちらにもカメラの設置を予定していると、以前の説明ではありました。そういったところで学校に入る際とか、不審者対策としてもカメラを設置する際に、町独自でやるよりもそういったところに委託してやって、お願いするのも手かと思えますし、校門の整備が、今後いろいろなところが出てくる際には、そういったことも自分たちから出すのではなくて、そういったところからの提供を受けるということも手ではないかと思えますので、ぜひ検討していただいて、再度内容についても、校長・教頭会での反応だけで多分終わっている部分もあるかと思えますので、そういったところでの意見聴取という、PTAに直接聞くチャンスも出てくるかと思うので、入学説明会とかそういったときにアンケートをとってみるとか、実際、じんじんメールの登録が少なく、今回台風が続きましたけれども、そういった際に連絡網がなかなか行かなくて、子供たちが帰るのを把握できなかったということも聞いていますので、システムの中に、有償会員ではありますけれども、メールの登録等もできるということなので、保護者に選択をしてもらおうと。こういったものもあると。無償登録ですよ、学校

10月10日（第4号）一般質問

のじんじんメールについても。そういったものもあるし、こういったツイタもののように有償でメール会員になることもできる、そういった選択の余地といいますか、考えるところも提供するべきではないかと。安全対策の中で必要だと思いますので、ぜひそういったことも取り組んでいただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 やはり28校の導入があるということですので、実際、学校等の運用方法だとか、そのときいろいろな意見が出たでしょうから、その辺も我々で調査して、どうすれば導入できるのか、どうすれば有効に活用できるのかの部分も含めて、少し検討させていただきたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 前向きな答弁だと捉えておりますので、じんじんメールに関しても、普及をやってもらうためにも、もし導入しないにしても、そういったところで力を入れないと連絡網はなかなかできないと思いますので、個人情報の観点からもなかなか連絡網の電話連絡ができない状況にありますので、そういったところでの再検討といいますか、やっていただきたいと思います。

次、大きい問い3、オリンピックに向けた取り組みということで質問しておりますけれども、実際、県からは聞き取り調査が入っていると聞いているのですが、ないですか。

○議長 知念富信君 教育総務課長。

○教育総務課長 上間 諭君 意向調査がございました。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん あと2年ということで、誘致するのであれば早期にやらないといけない事業だと思いますけれども、実際、聞き取りの中で町としての返答はどうしているのか。希望しませんとしているのか。聞き取りに対して返答をきちんと出しているのかどうか。

○議長 知念富信君 教育総務課長。

○教育総務課長 上間 諭君 誘致をする場合には、誘致を希望する場合の競技を出してはございます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 実際、その競技については聞いても大丈夫ですか。何を誘致しようとしているといいますか、県に対しての返答をどうやったのか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 再度答弁します。誘致をすればどういう競技がいいかということです。誘致をしますかというところで断言したものではなくて、競技は、サッカー場があるのでサッカーということで回答しているようです。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん サッカーということですが、実際、サッカーでは1チーム見えていますけれども、県内では陸上も盛んにキャンプが来たりしますけれども、サッカー以外で打診があった場合、陸上だったり他種目であっても、こちらに来たいということであれば受け入れる、その状況にもよると思うのですが、サッカー以外でも受け入れる考えはあるのか、ないのか、お願いします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 誘致については、やはりいろいろな波及効果があると思います。ただ、意外とこれはお金がかかったりする場合もございますので、やはりトータルで、最初に答弁したとおり、費用対効果というのもございますので、手を挙げて誘致してみたら意外とお金がかかったということになると、次は財政の心配等が出てきますので、その辺もしっかり見きわめて対応してまいりたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。オリンピックについては、いろいろな所が手を挙げて、八重瀬町も水泳でしたか、いろいろやっているようですけれども、何もオリンピックに乗っからないといいますか、かかわらないというよりも、やはり何かの手でかかわっていくほうが、南風原町を世界に発信していく中では必要だと思いますので、

(1)は総合的に判断するということですので、(2)に行きたいと思います。

販路拡大ということで、傷まないものということだったので、私の中では花織や餅を使ったものということで提案しているのですが、やはりこういった企画ものというものは、1カ所でやるものではなくて、プロジェクトチームとしてやるべきだと思っています。その点からは、経済建設だったり教育だったり、民生も何かかかわれるものが、パラリンピ

10月10日（第4号）一般質問

ックもありますので、そういったところでのかかわり、総務は総務で、先頭を切って走らないといけないと思いますけれども、総務ではどうお考えでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 先ほど教育長からもあったように、総合的な判断でオリンピックは誘致するものだと考えておりましたが、仮に誘致ができるのであれば、全体的に協力して、連携してやっていくべきだと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 誘致だけではなくて、私は販路拡大というところなのですが、私たち議会としても研修で行ったり、そういったときに手土産を持って行って相手先に届けるときに、やはり南風原町の特産品を持って行きたいと思っておりますけれども、やはりオリンピックはオリンピックで、オリンピックの年に開発したのものとして、丸ごと南風原みたいなお土産があれば、やはり喜んでもらえるかなど。中には県系人の方で選手になれる方もいらっしゃると思っておりますし、何かの形で南風原町を発信していくためには、一つに限らず、記念に残るものとか、食事関係、ヘチマを使ったジャムも以前にありました。そういったところでもいろいろなものを商品開発して、オリンピックの勢いに乗って南風原町を発信していくといういいチャンスではないかと思うので、ぜひプロジェクトチームをつくって、そういった販路拡大、アピール、また今、ふるさと納税の問題もかなり伸び率は上がっていますので、オリンピックの年だけでも、その年だけのオリジナルの商品開発とかやっていたら、その年に伸びるとか、いろいろなことが考えられると思うのですが、やはりそれは経済建設とか、産業振興課だけに頼るとか、教育委員会に頼るというよりも、やはり企画としては総務が引っ張っていくべきだと私は思うのですが、いかがですか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 商工とか産業関係については、産業振興課と連携していくのは必須だと思います。また我々総務部としては、ふるさと納税に係る返礼品についてはこれから強化していくという考えを持っていますが、これはオリンピックに特化したことではなく、今後、自主財源の確保という観点からも力を入れていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ぜひ一事業所とか一部署の単位ではなくて、全庁挙げてぜひ取り組むという中で、誘致がもしできなくても、そういった発信の方法は乗っかってやらないと、周りはどんどん盛り上がるのに、南風原町は何も盛り上がりがないとなりかねないので、ぜひ盛り上げていっていただきたいと思っております。

では次、大きい問い4に行きたいと思っております。障がい児の受け入れということで、各小中学校の在籍児は何名かということで質問しまして、今トータルでの人数になっているのですが、各学校単位での人数も今ただけですでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 発達障がい児の各学校の在籍の状況です。まず南風原小学校、自閉・情緒学級が30人、津嘉山小学校9人、北丘小学校6人、翔南小学校8人、小学校合計で53人。それから南風原中学校が12名、南星中学校が4名、中学校合計で16名。それから通級に通っている児童です。南風原小学校が21名、それから翔南小学校が11名、小学校合計で33名。それから南風原中学校が12名、中学校合計で12名。その他が普通、通常学級への在籍ということになっております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん それぞれに支援員も配置されていると思うのですが、実際、人数的には増加傾向にあると聞いていますけれども、そのような判断でよろしいですか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 発達障害児のほかにも支援の必要な子がおりまして、トータルでいきますと年々ふえている状況にあるということでございます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 支援員もふえて、子供たちがふえているから自動的に支援員もふえると思っておりますけれども、(2)で支援員のほかに専門家の配置はあるかということ、相談業務を行う特別支援教育相談員が配置されているということでもありますけれども、実際、相談だけではなくて、その子に合わせた支援の方法をきちんと確認しながら、教育といいますか、学校現場で支えていかないといけないと思うのですが、(3)のほうで作業療法士が学校を訪問してアドバイスということですが、小学校4校ありますけれども、支援のために専門家の配置として作業療法士の配置は検討されていないでしょうか。

10月10日（第4号）一般質問

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 教育委員会としては、まず学校の学級の先生も、障がい児を教育するためのスキルをアップしていきながら対応していくことを考えていまして、現在は、その支援に作業療法士を配置することは、現在は考えておりません。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 実は、作業療法士を配置したらどうかというのは、子供たち、グレーゾーンの子供を含めると結構多くて、先生もその子の対応をするだけでも手一杯だと。理解をするまでにも時間がかかると思いますし、その子に合わせた、どういうカリキュラムを組むかというのは、かなり難しいところになっていると思います。10月7日に南風原町のPTA連合会でも役員研修会で作業療法士の先生に来てもらって、分科会ではあったのですが勉強させていただきました。保護者からの要望も多くて、一番人気の分科会で、作業療法士の方のお話を聞いて、保護者からも、研修が終わった後も、講師の先生をつかまえて一生懸命話を聞くぐらい、すごい集中していい内容の講習だったのですが、その中で、その子に合わせたカリキュラムをつくっていくことが大事だと。その子の発達障がいの種類に応じた対応とか、感覚統合というものをやらないと、なかなか先に進めなかつたり、グレーゾーンの子というのは、集団の中にも支援員がいなくても生活ができる子は結構いるのです、そのカリキュラムに沿っていけば。成長の過程で障害を克服といえますか、ある程度みんなの中で生活していけるような状況にまで持っていけるということなので、早期発見というよりもその子の苦手を克服するために何をしていくかということが大事だと話されていました。そういうこともあって、学級の担任にその子に合わせたカリキュラムまで考えろというのはかなり厳しい状況だと思うので、できたら、小学校は4校ありますので2校に1人とか、そういった形で作業療法士を配置して、その子に応じたカリキュラムといえますか、対応をやっていくと、かなり支援員の方の負担も減りますし、担任の負担も減るかと思えます。一番は、子供が生活しやすい環境づくりになると思うのですが、再度質問いたします。作業療法士の配置も検討してはどうかというところですか。いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 ありがとうございます。その辺については福祉部のこども課とも、我々とタイアップしながら、作業療法士の先生をいろいろ研修に招いてみたりということは、させていただいています。今おっしゃっているような部分については、まだ我々も十分な研究をしていませんので、再度情報収集をして、こちらも研究してみたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ただ支援員をふやせばいいではなくて、どのように対応していたらいいのかという勉強も含めてやっていくことで、学校側の負担も減ると思いますし、子供の精神的ストレスも減る。自分が思っていることができないというところでの歯がゆさを持って、子供は生活していると話をされていましたので、ぜひ対応の仕方を、子供たち、特に低学年は4月生まれと3月生まれでは大きな差がありますよね。1年生の場合特に。そういった中でも、それが成長段階で解決していくものなのか、それが障害に関するものなのか、まだわからない部分が出てくると思います。そういった中で、作業療法士の方がかかわれば、安心して保護者も見ることができると、アドバイスを受けることができると思いますので、ぜひ設置は検討していただきたいと思います。また、国とか県の予算確保というところでもかなり難しいところがあるのかどうか、そういったところも調査研究してほしいのですが、大丈夫ですか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 我々のほうでしっかり勉強させていただきたいと思えます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。やはりただ支援員を配置すればいいではなくて、どのように支援していくかをきちんと確認しながら養育することで、普通に生活できるという子もふえてくるかと思えますので、ぜひ前向きに動いていただきたいと思えます。前向きな答弁だと思っておりますので、早目をお願いします。また、これまで2期8年間、子供たちの福祉、また町民の福祉ということできっと頑張ってきましたので、これからもぜひ提言させていただきたいと思えますので、ぜひよろしくをお願いします。ありがとうございます。